

「第20回天文教育研究会・ 2006年天文教育普及研究会年会」の報告

松村 雅文

〈天文教育普及研究会会長，香川大学教育学部〉

e-mail: matsu@ed.kagawa-u.ac.jp

篠原 秀雄

〈第20回天文教育研究会実行委員長，埼玉県立蕨高等学校〉

e-mail: hideo-s@js2.so-net.ne.jp

「天文教育研究会」は，天文教育普及研究会が主催する会合で，毎年夏に開催しています。20回目という記念すべき今年の「天文教育研究会」は，群馬県渋川市伊香保町において，8月6～8日の日程で開催されました。風光明媚な温泉の町で，過去と未来に思いを馳せつつ，天文教育普及について深い考察が行えた会でした。参加者数は73名でした（写真1）。

今年の研究会のメインテーマは「天文教育普及活動の20年，そしてこれからの20年」でした。基調講演は，第20回記念ということで，日本天文学会理事長の祖父江義明氏に「天文教育における学会と教育界の連携について」というタイトルで講演をしていただきました。天文教育普及研究会には，約600名の会員がいるが，その周りには，約100万人のオーダーの先生（多くは文系）がいる，さらに約1,000万人のオーダーの児童・生徒がいるが，この中での天文教育普及研究会の役割は何であろうか，という本質的かつ将来への示唆に富んだ問いかけをいただきました。“謎の会”とも言われている(?)らしい天文教育普及研究会が，今後は“普通の会”を目指すのか，今のままが良いのか，あるいはさらに別の道を選ぶのか，まだ明確ではありません。さまざまな視点からのご意見をいただき，考えていきたいと思えます。

今回のメインテーマに関連する“テーマセッ

ション”の「学校教育」については水野孝雄氏（東京学芸大学）に，「社会教育」については黒田武彦氏（西はりま天文台）に講演していただきました。さらに渡辺洋一，鈴木文二，伊東昌市，伊藤哲也の各氏には，それぞれの活動を基に報告をしていただきました。今までのわれわれの活動の方向性の確認と，今後の進展と深化について，より具体的に示され，有意義なものになりました。

特別講演では，京都大学の嶺重 慎氏に，ブラックホール研究の歴史と最前線の紹介をしていただきました（写真2）。小・中学校の教材としては，直接は扱われないものの，子供たちにとっては大人気のブラックホールについて，興味深い話を聞くことができました。

社会教育活動の実例として，10年前より実践を続けている「科学ライブショーユニバース」の出張上演がありました。さらに第20回の特別記念企画として，「天文の本・児童書展」（塚田 健氏の資料提供），「『天文教育』と集録のバックナンバーの展示」（新井浩之・水野孝雄両氏の資料提供），「天文雑誌のバックナンバーの展示」（新井浩之氏の資料提供）が行われました。20年を振り返るのにまさにふさわしい企画であり，昔を懐かしがる参加者の姿があちこちで見受けられました。

研究発表は，基調講演1件，テーマセッション



写真1 会場の様子。



写真2 特別講演をいただいた嶺重 慎氏。

の講演6件、ポスター10件を含め、合計41件でした。内容は天文教育普及に関して、非常に多岐にわたります。詳しい内容については、集録をご覧ください（集録の入手は、天文学会の年会のときに可能です。または筆者までご連絡ください）。

また、深刻ですが、あまり一般には認識されていない「社会教育施設における指定管理者制度」の問題についても議論されました。この結果、メーリングリストの議論などを経て、2006年9月12日付けで、天文教育普及研究会としての声明文を公表することができました。また研究会後に議論が始まりましたが、IAUの惑星定義に関する要望書も同日付けで、公表することができまし

た。これらの声明文・要望書については、天文教育普及研究会のホームページ <http://tenkyo.net/> でご覧になれますので、是非ご一読をお願いします。

さて来年の研究会は、東北で開催される予定です。参加は、天文教育普及研究会の会員であるかどうかを問いません。21回目という大人としての第一歩となる来年の研究会で、皆様にお会いできることを楽しみにしております。

なお本稿で使用した写真1と2は、『天文教育』2006年9月号 (Vol. 18, No. 5) pp. 22-23にも掲載されています。